

公共体育館の利用とその誘因 に関する研究（Ⅰ）

－利用者の居住分布との関係－

○田原淳子 守能信次 仲野隆士（中京大学）
永松昌樹 徐相玉 佐藤馨 蔡守浦 金恵昇（中京大学大学院）

公共体育館 顧客分布 地理的要因 空間移動要因（距離、時間、サービス）

1. 研究目的

近年、民間のスポーツ・クラブが脚光をあびているが、その一方で公共のスポーツ施設も費用の安価な点や身近さ等を考えれば地域住民の積極的な利用が望まれる。

愛知県豊田市には7つの公共体育館があるが、それらは一様ではなく異なる立地条件と特徴を有している。その中から住民がある体育館を利用する場合、その動機、理由になっているものはなにか、また住民が望む体育館施設とはどのようなものなのかを明らかにすることによって、市町村の施設計画に役立てていくことが重要であろう。そしてそのためには、利用者からみた地理的条件、人とのつながり、施設の好感度、付属施設、予約のシステムなどが利用者の施設選択にどのような影響を及ぼしているのかを多角的に分析・検討する必要がある。そこで本研究は、豊田市の公共体育館利用者の意識と実状を調査し、住民の利用を決定づける要因の一つと考えられる利用者の居住地と体育館の立地条件という地理的要因を中心に検討しようとするものである。

2. 研究方法

愛知県豊田市内のすべての公共体育館（7カ所）の利用者に対して質問紙による調査を実施した。調査の期日は1991（平成3）年7月9～11日（火・水・木）の中から一日とし、調査対象者は調査日（開館時間午前9時から午後9時）に体育館を利用した人全員とした。なお、有効回答数は405件であった。

3. 結果と考察

まず、利用者がある体育館を利用する際の理由について分析した結果、「近いから」という施設までの距離を理由としている人が最も多く、全体の7割以上を占めていた。次に体育館までの所用時間を見ると、利用者の81.5%が体育館までの所用時間が「15分以内」であった。16分以上30分以内の人では、「遠い」と感じている人が「近い」と感じている人を上回った。交通手段は「車（便乗を含む）」が72.8%と大部分を占め、次いで「自転車」19.3%、「バイク」4.0%であった。また社会人に着目した場合、全体の6割近くの人が勤務先から直接来ており、ひとつの特徴として捉えることができる。これらのことは、豊田市の大きな特徴が自動車関連製造業を中心とした工業都市であり、住民の足は公共交通機関よりも主として自動車に頼っていることを反映した結果であると思われる。

4. 結論

本研究により、利用者の居住分布と利用体育館とはかなり密接な関係があることが明らかになった。その交通手段を主として自動車による場合、所用時間は15分以内であることが求められる。また付属施設の多い多目的なスポーツ施設や規模の大きい体育館は、地元以外の地域からも利用が多い（広域移動型）ことが明らかになった。

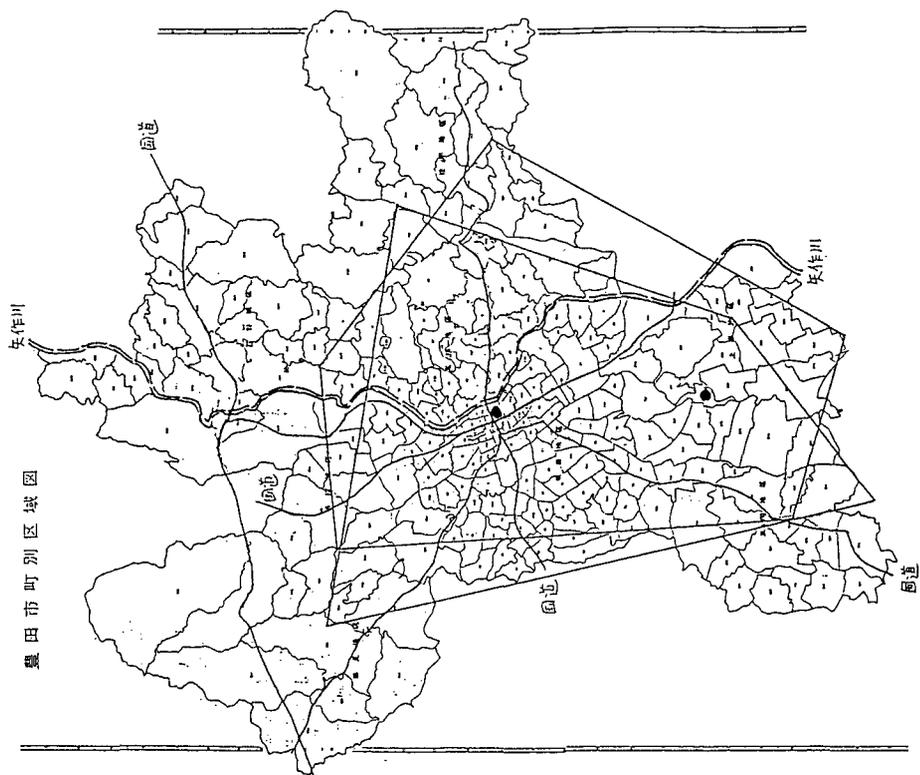


図 2 広域移動を伴う体育館

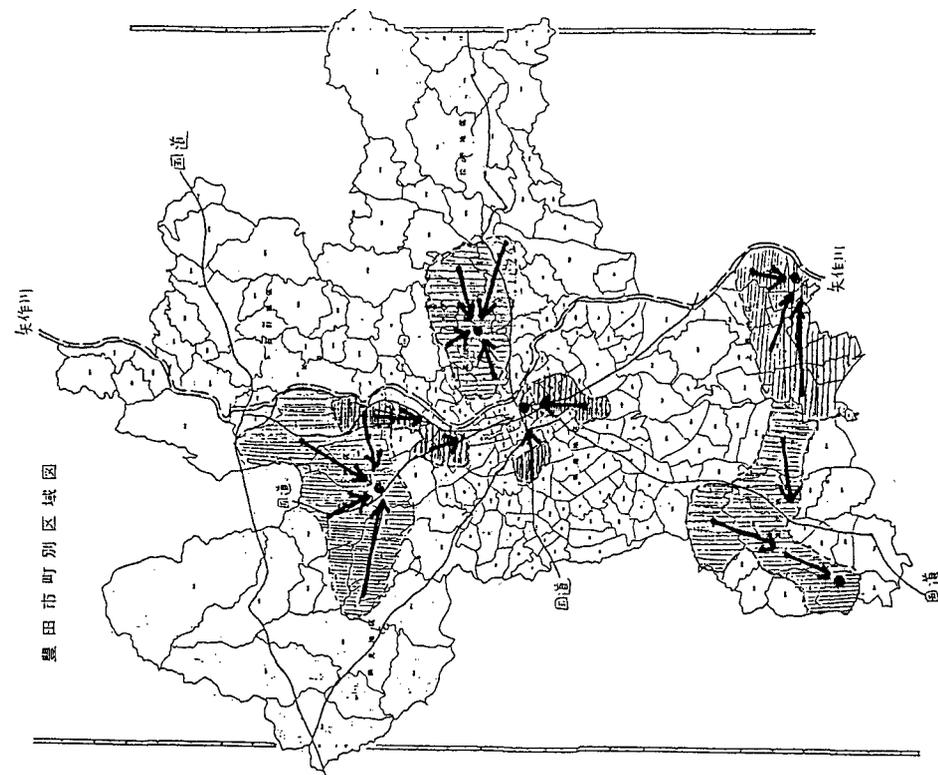


図 1 地域移動を主とする体育館